2021年12月15日
No.201
横浜市社会福祉協議会創立70周年 70th Anniversary

ほら、よこはま はあったかい

市民活動・ボランティア活動情報誌

福祉よこはま

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会

「福祉よこはま」は、横浜市が編集に協力しています

特集

障害のある人と一緒に地域で暮らす

NPO法人ぷかぷかの皆さんと「公道の街路樹掃除の様子」(中心・右上)、「近隣農園での様子」(左上)(10月20日撮影) → 詳しくは特集で

もくじ

福祉の仕事 横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター …… p4
Let's try ボランティア スポーツを通じた人と人の関係づくりに、ボランティアができること …… p5
市社協情報 第6回 よこはま地域福祉フォーラム …… p6

ここから最新号とバックナンバーをご覧になれます

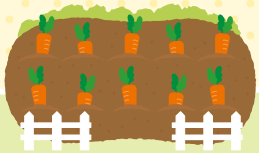
福祉よこはま 検索

障害のある人と一緒に地域で暮らす

地域の中でさまざまな違い、価値観を受け入れて一緒に暮らしていく。障害のある人もない人も孤立しないでお互いに助け支えあっていく。そのような社会が誰にとっても住みやすい社会ではないでしょうか。地域には障害のある人だけでなく、さまざまな立場や背景を持つ人がいます。多様な価値観を認めあい、誰もが自分らしくいきいきと暮らす大切さを、NPO法人ぷかぷかの取組を通じて考えます。

地域に溶け込んだ活動

畑班の活動の一部をご紹介！



午前

近隣の農園で季節野菜の栽培やたい肥作りを行っています。野菜作りの上手な地域の方が「次に植える野菜は何にするの?」、「そろそろ里芋の収穫時期だね」、「畑でとれた柿持っていく?」など気にかけてくれ、困ったことがあるとアドバイスをしてくれたり、手伝ってくれます。

午後

地域ボランティアの方と一緒に街路樹掃除を行っています（横浜市ハマロード・サポーター）。「地域に溶け込んだ活動をしたい」という思いから始まった取組は今年で3年目を迎え、近隣住民にも少しずつ知られてきました。

1日の流れ

〈午前〉畑で作業

〈午後〉街路樹掃除

ぷかぷかでは設立当初から**地域住民との出会い、交流**を大切にし、畑班の活動のほか、パン教室や演劇・アートワークショップ、人権研修会などで地域の方と一緒に活動しています。

メンバーの思い

ぷかぷか畑班のメンバーさんに聞きました！

赤木さん

畑班の仕事が好き。
持ち前のパワフルさで
落ち葉運びや畑作業でも大活躍。

（地域の方との）稲刈りや
野菜の収穫が楽しみです

斉藤さん

集中して黙々と
作業をする姿が印象的。

大きなほうきで（公道を）
掃除してきれいに
なるのが嬉しい

平本さん

模型や人形製作が得意で、
これまでにたくさんの
素敵な作品を制作。

（街路樹の掃除で）通行人の方に
「どうぞお通り下さい」と言うと、
「ごくろうさま、ありがとう」と
言ってもらえるのが嬉しい

横山さん

エコに関心があり、勉強中。
彼の描くアート作品の
ファンも多い。

暑い日には
畑の土に水をかけ、
「地球を冷やしてあげる」

NPO法人 ぷかぷか

個性豊かな44人のメンバーが働いています！

緑区霧が丘の団地内にあるNPO法人ぷかぷかでは、個性豊かな44人のメンバー(※1)がパン屋、食事処、惣菜・弁当屋、アートショップなどで働いています(就労継続支援B型事業所 ※2)。

ホッと一息つける場所

スタッフとメンバーのお互いを認め尊重しあう関係が居心地の良い空間を作り出し、訪れた人もその柔らかな雰囲気を感じ、ホッと一息つける場所に。メンバーと出会った人たちは、**彼らの人柄やあたたかさに元気をもらい、いきいきと自然体で働く姿**に心動かされ、ぷかぷかのファンになっています。

※1　ぷかぷかでは利用者の方を「メンバーさん」又は「ぷかぷかさん」と呼んでいます
※2　就労継続支援B型事業所は、企業などへの就労が困難な障害のある方に創作的活動や就労・生産活動の機会提供、社会との交流促進を行う事業所です

地域住民の思い

畑で会うと自然に声を掛けあい

畑でメンバーさんに会うと「これ持っていくね」と重いものを自ら運んでくれたり、「お孫さんに」とカブトムシの幼虫を渡してくれたり、メンバーさんの**優しさや純粋さに心があたたかくなります。**今では孫と同じくらい大切な存在です。

近隣の農園で顔見知りの地域の方▶

毎週水曜日の活動を心待ちに

一緒に活動する中で、しょうがいしゃ※の方への見方が変わりました。**彼らの素直な人柄や誠実さ、落ち葉集め一つでも一生懸命に取り組む姿からは教わることが多いです。**上手くできない部分は力を貸し、成長していく姿を間近で見られるのが喜びです。これからも楽しみながら長く活動を続けていきたいです。

※本号では、ご本人の意向に沿った表記にしています

街路樹の掃除を行う地域ボランティアの川口さん▶

ぷかぷかスタッフの思い

地域住民に支えられて

当初は農業に関する知識がなく、メンバーさんとの手探り状態。土づくりから収穫まで、地域の方々からの助言やお手伝いのおかげで続けることができました。

今では顔見知りも増え、畑で会うと声を掛けて下さいます。**畑を通じた地域の方との関わり**をこれからも大事にしていきたいです。

◀ぷかぷか畑班スタッフの三枝さん

ぷかぷかのファンから生まれたneiro ♪♬♩

人生を豊かにしてくれる存在

▲neiroメンバーの酒井さん

neiro(旧ぷかぷか作り隊) は、ぷかぷかのような場所が社会全体に広がり、多様な社会について誰もが自分事として考えるきっかけを作りたいと願い、ぷかぷかの理念に共感した仲間とSNS等を中心に活動しています。

ぷかぷかの店舗を訪れたり、演劇ワークショップに参加し、ぷかぷかのファンになりました。メンバーさんと話し、ともに過ごすことで**「障害の有無ではなく、みんな、はじめから一緒である」**と自然に感じることができました。その思いを広げていきたい、障害のある方と関わる楽しさを知って欲しいと考え、今の活動につながっています。

facebook　https://www.facebook.com/tsurumi.pukapuka/

▲ぷかぷか施設長 魚住さん

障害のある人たちと共に過ごし、共に働くことの楽しさや素晴らしさ、生み出される輝きのようなものをぷかぷかに来てくださった方や地域住民と共有できるようになってきました。ぷかぷかの活動は、**地域で互いに幸せを感じる関係を広げていくことが基本**になっています。**「地域とつながる」とは、自分たちから出向いていくばかりではなく、待っているだけでもない“程よい距離感”で進めていくことが大切**と考えています。そして、日々の自然な関わりの中で作られた「支えあい・助けあい」の関係こそが、長いおつきあいになっていくものと感じています。

▲ぷかぷか理事長 高崎さん

障害のある人たちに「何かをやってあげる、支援する」という上からではなく「一緒に生きていく」というフラットな関係を築いています。

「こんな素敵な人たちがいて、一緒に生きていった方が楽しいよ」、「障害のある人もない人もお互いが気持ちよく暮らせる社会へ」といったメッセージを発信しています。

『NPO法人ぷかぷか』のホームページはコチラ　URL https://www.pukapuka.or.jp/

シリーズ No.49
福祉の仕事

横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター

南区医師会訪問看護ステーションで
横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターとして働く

〈看護師〉
山西（やまにし） 紀恵（のりえ）さん に聞きました

医療ニーズのある方やお子さん そしてご家族が安心して地域で 生活できるよう支えていきたい

経歴

▶ 看護専門学校を卒業後、小児専門の医療機関を希望し、神奈川県立こども医療センター新生児集中治療室（NICU）及び外来で勤務。その後、子どもの地域医療に興味を持ち、訪問看護ステーションや地域活動ホーム、横浜市多機能型拠点、放課後等デイサービスで障害児・者の看護経験を積み、令和2年4月から現職。静岡県出身。

日々の仕事

▶ 障害児・者のご家族や福祉施設の職員、区のソーシャルワーカーなどからご相談を受け、状況により自宅や病院、施設等へ訪問しています。医療的ケアが必要なお子さんの預け先（保育所や幼稚園など）、就学や卒業後のこと、地域医療や福祉サービスの利用に関することなど相談内容はさまざまです。内容によって対応は異なるので、情報を整理しながら判断していく点で、これまでの看護師の経験が活きています。また、障害児やそのご家族の思い、状況を知るために「親の会」の定例会に出席することもあります。

心がけていること

▶ 横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター（以下、「コーディネーター」）は、相談者から話を「聴く」そして「答える」ことが必要とされるので、「言葉」の重みを感じています。電話相談が多いことから、自分の発する言葉に責任を持ち、相談者が伝えたいことを理解しているか確認した上で、納得される言葉を返すことができているか常に意識しています。

喜び、やりがい

▶ お話を聞く前は沈んだ声の相談者が、丁寧に話を伺うことで声のトーンが明るくなったり、「これから頑張ってみます」という前向きな言葉が聞けたり、すぐには解決に至らなくても相談者が今後の方向性を見出すことができると、コーディネーターとして嬉しく感じます。

地域の方へ

▶ 市内6拠点にコーディネーターが配置されてから2年目になります。月1回の定例会では情報や課題を共有し、コーディネーターとしてスキルアップを図りながら、現場でよりよい支援につなげられるよう取り組んでいます。コーディネーターとしてまだまだ未熟な部分はありますが、皆様からの期待を受け止めつつ、相談者に寄り添いながら、一緒に考えていきたいです。

横浜型医療的ケア児・者等コーディネーターとは？

専門的な研修を受けた訪問看護師が、医療的ケア児・者等（※）とそのご家族、地域の支援者や関係機関との繋ぎ役となり、在宅生活で必要なサービス等を適切に受けることで、安心して生活ができるように支援していくお仕事です。

※医療的ケア児・者等とは、心身の機能に障害があり、呼吸や栄養摂取、排泄などの際に、医療機器とケアを必要とする方たちです。横浜市は医療的ケアのない重症心身障害児・者も支援の対象としています。

〈横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター拠点の一覧〉

拠点名	支援する区	電話・FAX
鶴見区コーディネーター拠点	鶴見区・神奈川区	電話：070-2628-1077 FAX：045-716-8606
南区コーディネーター拠点	西区・中区・南区・戸塚区	電話：045-308-7102 FAX：045-308-7102
旭区コーディネーター拠点	保土ケ谷区・旭区・泉区・瀬谷区	電話：070-3100-0870 FAX：045-363-2991
磯子区コーディネーター拠点	港南区・磯子区・金沢区・栄区	電話：045-330-9966 FAX：045-753-6633
青葉区コーディネーター拠点	緑区・青葉区	電話：045-507-7878 FAX：045-507-7813
都筑区コーディネーター拠点	港北区・都筑区	電話：045-910-6586 FAX：045-911-6700

▲横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター定例会の様子

〈イラスト協力〉木島 里絵

◆ この記事に関するお問合せは
横浜市社会福祉協議会 企画部企画課 ☎ 045-201-2090

横浜市内の福祉人材に関する求人情報 ⇨ 横浜市介護人材情報

Let's try ボランティア

スポーツを通じた 人と人の関係づくりに、ボランティアができること

東京2020パラリンピック競技大会に、ボランティアとして参加した日本体育大学（以下、日体大）4年生の箕浦（みのうら）あずささん、教授の野村一路（のむらいちろ）さん。スポーツボランティアを通じた人との出会いは、互いを認め合い、多様性を尊重する地域づくりにつながるとの思いを強めたようです。

インタビューしました！

箕浦あずささん
日本体育大学
スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科
4年

大学1年生の時、ちびっこ駅伝に特別支援学校の児童が出場すると聞いて、車いすを押して一緒にレースに参加したのがスポーツボランティアの初経験でした！

ボランティアに申し込んだきっかけ

東京での開催に関われるのは人生で一度きりだと思い、個人としてボランティアに申し込みました。パラリンピックのゴールボール競技のアクセスコントロール業務担当になりました。

アクセスコントロール業務とは

練習・試合会場の出入り口で、選手や関係者の通行を振り分けて動線を管理する仕事です。半日交代制で私は14時から、長い時は選手退出後の22時まで会場で活動しました。

活動してみて大変だったこと

競技会場で視覚障がいのあるブラジルの選手に声をかけられ、ジェスチャーが使えず言葉だけで説明しなければならなかった時です。つたない英語でなんとか対応しました。

パラリンピックで印象に残っていること

競技の後で両チーム選手が「また会いましょう」とハグしていたシーン、女子決勝戦でアメリカチームの監督が、相手のトルコの選手に「いいゲームだったよ」と話しかけているシーンに感動しました。

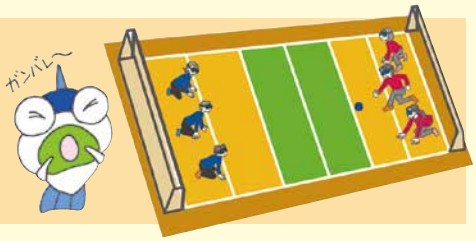
パラリンピックに関わってみて感じたこと

パラスポーツは、さまざまなスポーツの中のひとつであるということです。ゴールボール（※）はアイマスクをすれば誰でも一緒に楽しめるスポーツで、もっと多くの方に競技を知ってもらいたいと思いました。

「ボランティア活動の魅力とは」これから活動をはじめようと思っている人へ

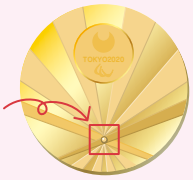
スポーツや福祉の分野に限らず、環境系や芸術系などいろいろなボランティアがあると思います。興味のある分野から始めて、いろいろな人と関わり、活動の幅を広げていけたらいいのではないでしょうか。パラボランティアで親世代、祖父母世代の方々とも知り合いになり、貴重な話を聞くことができました。

※ゴールボールとは視覚障害のある方が男女別に行うチームスポーツ。鈴の入ったボールを互いに転がすように投げ合い、得点を競います。



Tokyo2020触って分かる！パラリンピックメダル

視覚に障害のある方が、手で触れることで順位がわかるように、裏側に金メダルには1つ、銀メダルには2つ、銅メダルには3つの凸の加工が施されていたり、さまざまな工夫がされています。



野村一路さん
日本体育大学
スポーツマネジメント学部
スポーツライフマネジメント学科
教授

横浜マラソン「2km車いす」部門、長野冬季オリンピックなどでもゼミの学生を中心にボランティアを組織し派遣に関わる。東京2020パラリンピックでは聖火ランナーの一人として参加した。

東京2020オリンピック・パラリンピックでの関わり

日本ゴールボール協会から競技運営にあたって学生を派遣してほしいとの依頼を受け、多くの学生に声をかけて50人規模の派遣体制を整えました。

学生にボランティアを通して学んでほしいこと

学生への依頼は、部活の指導補助、障がいのある児童生徒の介助員などが多くあります。競技者として大会に参加する学生も多くいますが、スポーツができる環境を支える側にまわってこそ学べることがあると伝えています。スポーツをサポートすることの楽しさと、さまざまな形で支えがあることを、体験を通して分かってもらえたら嬉しいです。

また、私のゼミでは子どもから大人、高齢者、障がいのある方、運動が苦手な方など誰でも楽しめるプログラムを体験するためのスポーツ教室を開催しています。地域で支え合う関係をつくる種まきを目的にしており、地域のなかで活動が続いていくとよいと思っています。

スポーツボランティアとは…

スポーツボランティアは、スポーツを通じて地域のみなさんがお互いに親しくなり、違いを認め合い、多様性を尊重して、住んでいて良かったと思える地域づくりに貢献するものです。ボランティアも地域の一員として、一緒にスポーツを楽しみ、いい関係性をつくっているんだ、という気持ちで活動を続けてほしいと思います。

横浜市ボランティアセンターより　あなたも一緒にボランティア活動をしてみませんか？

スポーツボランティアに興味のある方はこちら
横浜市スポーツボランティアセンター
ホームページはこちら

この記事やボランティアに関するお問合せはこちら
横浜市ボランティアセンター
☎045-201-8620
ホームページはこちら

第6回 よこはま地域福祉フォーラム

変わりゆく日常でも よりそえるまちへ
～つながり、再始動（リスタート）～

令和3年9月10日(金)に関内ホールにて開催。基調講演では東京都立大学の室田氏より「つながり続ける地域づくりのために」と題して、今問われているつながりの形、身近な地域の中でつながり続けるためのポイントについて、実践事例を交えてお話をいただきました。また、分科会では「このまちで、つながりつづける」、「一人ひとりに寄り添う、想いを紡ぐ」として市内6つの取組をご報告いただき、これからも寄り添い支えあうため何ができるのか、皆さんとともに考える機会となりました。

◀基調講演の講師
室田（むろた） 信一（しんいち） 氏
（東京都立大学准教授）

▲基調講演の様子（関内ホール 大ホール）

YouTube による録画配信

配信期間　令和3年9月24日(金)～12月24日(金)

第6回 よこはま地域福祉フォーラム

URL
http://www.yokohamashakyo.jp/chiikifukushi-f/index.html

詳細はこちら

【問合せ】横浜市社会福祉協議会 企画部 企画課　☎ 045-201-2090

賛助会員のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。令和3年7月16日～10月7日 新規受付・継続受付分

個人会員　●中林 央一 様

詳しくはホームページをご覧ください ▶

【問合せ】横浜市社会福祉協議会 総務部
☎ 045-201-2096

みんなのきもち ありがとう

みなさまからお寄せいただいたご寄付は、地域の助けあい、支えあい活動のため、有効に活用させていただきます。

よこはまふれあい助成金 助成事業

NPO法人子どもと共に歩むフリースペースたんぽぽ

当事者が発信する 不登校・引きこもりを知る プロジェクト

不登校や引きこもりの問題は個人や家庭内の問題と思われることも多く、苦しい思いをしながら暮らしている方がたくさんいます。たんぽぽは、この問題を社会課題として取り組んでいくことが重要と考え、不登校を経験した若者、またその保護者、引きこもりといわれている方たちなどが自分の思いや実情を発信することを重点に、多様な生き方が保障される地域社会を目指し、さまざまな活動をしています。

ありがとうメッセージ

あたたかいご支援を本当にありがとうございます。

たんぽぽは、不登校の子どもたちや若者の居場所の運営、保護者の相談や交流を行っています。わが子が不登校になった親たちが中心になり、居場所を開設してから13年になりました。先日も、不登校の小中学生数が19万人を超え、子どもたちの厳しい状況が報道されました。たんぽぽでもコロナ禍であることから、相談が増えています。オンラインも活用しながら手探りの状況ですが、生きづらさを抱えている子どもや若者が元気と希望を持てる社会を目指して活動を続けたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

▲Web会議ツールを使った講演会

▲鎌倉に行ってきました

横浜市ボランティアセンターでは、寄付のご相談をお受けしています。☎045-201-8620

寄付者のご紹介

ご支援・ご協力ありがとうございました。順不同　令和3年7月1日～9月30日受付分

善意銀行　金銭寄付者
- ●Dream財団 様（4件）
- ●PCサポート隊ハマボラ 様
- ●匿名（2件）

善意銀行　物品寄付者
- ●公益財団法人 神奈川芸術文化財団 様
- ●KDDI 株式会社 南関東総支社 様
- ●公益財団法人みずほ教育福祉財団 理事長 塚本 隆史 様（2件）
- ●市川 規子 様
- ●日本音楽文化交流協会 様
- ●匿名（1件）

障害者年記念基金寄付者
- ●よこはまシニアボランティアポイント登録者 様
- ●浜住研 株式会社 代表取締役 齋藤 善信 様
- ●匿名（1件）

福祉基金寄付者
- ●矢野 滋子 様
- ●匿名（4件）

ヨコハマ寄付本寄付者
- ●片桐 龍美 様
- ●横浜市磯子区社会福祉協議会 様
- ●横浜市篠原地域ケアプラザ 様（2件）
- ●株式会社 高栄設備工業 様
- ●今井 昭彦 様
- ●横浜市西区社会福祉協議会 様
- ●サンシティみなとみらいEAST 様
- ●横浜市神奈川区社会福祉協議会 様
- ●横浜市港南区社会福祉協議会 様
- ●横浜市麦田地域ケアプラザ 様
- ●横浜市社会福祉センター 利用者一同 様
- ●匿名（40件）

※寄付者については、横浜市ボランティアセンターのホームページでも掲載させていただいています。

横浜市ボランティアセンター

みんなの声

前号の感想

創立70周年おめでとうございます。
毎日の地道な活動が、私たちの生活を支えていることを改めて学びました。
私も何か出来ないかなあと思っています。
（泉区　H.W）

コロナ禍だからこそ、地域のつながり、人と人とのつながりは大事。
“ボランティア”と“活動先”の間の橋渡し役コーディネーターさんの活動を応援しています。
（鶴見区　E.K）

今回、福祉よこはまが200号ということで改めて驚きました。今でも覚えているのは10年くらい前に数回「みんなの声」に自分のおたよりを載せてもらったことです。当時8歳だったうちの子はたくさんの方に支えてもらいながらすくすく育ち来年の春には養護学校を卒業します。コロナ禍の今だからこそ、福祉の力を感じています。感謝の気持ちをここでお伝えしたいです。ありがとうございました。
（保土ケ谷区　眞壁 泰）

読み易く、内容が充実しています。
私も地区社協の広報を担当していますが、参考になりました。特に写真の部分がはっきり美しいです。
ちなみに現在あんしん訪問委員を兼ねた配食サービスを手伝っていますが、他の地域のみなさんも頑張っている様子に励まされました。
（保土ケ谷区　K.H）

初めて冊子を手に取りました。
横浜市へ引っ越すまでは三重県の社協職員で、引っ越した後はケアマネージャーとして勤務、と同時に数年前には民生委員を拝命したりと福祉に関わってきました。今回の特集のように、もっともっと身近な地域の中でのボランティア活動が広がっていけばいいなあ…と強く感じました。
（瀬谷区　H.Y）

今回、地区社協やボランティアセンターの活動内容や役割・位置づけをよく知ることができました。地区社協を構成する団体の多様さに驚くと共に、活動範囲の広さに大きな期待を抱かせてくれました。コロナ禍の今は特にその重要さが増すと思われ、その活動がさらに充実したものになることを強く願います。
（横須賀市　K.K）

福よこクイズ

ご応募・ご感想お待ちしています！

「地域活動支援センターHIKARI生成りエコバッグ」プレゼント！

オリジナル刺繍入り

柄はお任せください

A4書類が入るサイズなので、サブバッグとしても活躍します。

地域活動支援センター HIKARI は、港北区大倉山にある精神障害の方が主に通う作業所です。

普段はオーダー家具、木雑貨の製造や刺繍・紙すき製品の制作をしています。エコバックはメンバーのSさんが一人で、デザインも考えながらコツコツと刺繍したものです。毎回違う柄が完成するので「今度はどんな柄かな？」とみんな楽しみにしている一品です。

〈ホームページ〉https://www.hikari-craft.com/

Q1 特集：緑区霧が丘の団地内にあるNPO法人○○○○は地域の方々とのふれあいを大事にした事業所です。（ひらがな4文字）

Q2 福祉の仕事：今回インタビューした山西さんは、横浜型○○○○○児・者等コーディネーターとして活躍しています。（漢字3文字カタカナ2文字）

Q3 市社協情報：第6回よこはま地域フォーラムは、「変わりゆく日常でもよりそえる○○へ」をテーマとして開催されました。（ひらがな2文字）

応募方法

はがき・FAX・Eメールにて、右に記載の項目をご記入のうえお送りください。

抽選で**15名**の方に**プレゼント**を差し上げます。

締め切り：
令和4年1月31日（月）必着

【応募先】
〒231-8482
横浜市中区桜木町1-1
横浜市社協
「福よこクイズ」係
FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp

【項目】
1）Q1～3の答え
2）郵便番号・住所
3）氏名（ふりがな）
4）年齢　5）電話番号
6）福祉よこはまの入手方法
7）福祉よこはまの感想
8）「みんなの声」次号掲載時の氏名の掲載可否（匿名希望の場合はイニシャルを記載）

【個人情報取扱】
※応募に関わる個人情報については、当選者への発送及び福祉よこはま紙面作成の参考にのみ利用させていただきます。

前号200号の福よこクイズの答えは、Q1：27　Q2：神奈川　Q3：ココロ でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

編集後記

（特集）NPO法人ぷかぷかの取材時、お店の前でベンチに座ってお茶をする親子連れの方、パンやお総菜を買いに来られた常連の方、メンバーさんと地域の方が楽しそうに話をしている姿が見られ、ぷかぷかが地域にとってなくてはならない場所であることを実感しました。地域の方の「メンバーさんの純粋さ、素直さに心洗われる、一緒にいると優しい気持ちになれる」という言葉が印象に残っています。障害のある人たちが地域の中でいきいきと生活できる場所がたくさんあると、よりよい社会になるのではないかと思いました。

次号▶No.202　令和4年3月 発行予定

〈発　行〉
社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1
☎045-201-2090
FAX：045-201-8385
Eメール：fukuyoko@yokohamashakyo.jp
URL：http://www.yokohamashakyo.jp
〈デザイン〉
株式会社 オールスタッフ

「福祉よこはま」は、共同募金配分金の一部を活用して発行しています。

ほら、よこはまはあったかい

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

横浜市社協は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

広告

例えば

アナタも身近な「見守りの担い手」に！

☆ご近所のお茶会などで契約トラブルの情報交換
☆消費者被害にあって困っていたら消費生活センターを案内

高齢者に多い消費者トラブル

①ネット通販で注文した商品が届かない
②お試しのつもりが定期購入
③無料点検からの強引な屋根工事勧誘

横浜市消費生活総合センター
消費生活相談電話 TEL.845-6666
FAX.845-7720

令和３年度

https://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険　検索

全国200万人加入!!　日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類 ＼ プラン			基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円（限度額）	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷		×	○
賠償責任の補償	賠償責任保険金（対人・対物共通）		5億円（限度額）	
年間保険料			350円	500円

団体割引 20%適用済／過去の損害率による割増引適用

商品パンフレットは
コチラ

（ふくしの保険ホームページ）

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償（傷害保険）

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

福祉サービス総合補償（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者　社会福祉法人 **全国社会福祉協議会**

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、年末年始を除きます。）

取扱代理店　株式会社 **福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667　FAX：03（3581）4763
受付時間：平日の 9:30～17:30（12/29～1/3 を除きます。）

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJ20-12303　2020.12.28 作成〉